

甲賀市「地域別グランドデザイン」 綾野学区版

～20年後の「AYANO」に向かって～



藤栄神社の境内に咲く「嘉明桜」

令和6年(2024年)3月

甲賀市水口町

綾野学区 地域別グランドデザイン検討委員会

目 次

- 2 ～20年後の「AYANO」に向かって～
 - 甲賀市地域別ランドデザイン綾野学区検討委員会からの「提案」です！
- 4 検討委員会では、こんな意見交換をしてきました。
 - ① 「地域別ランドデザイン」って何かな？
- 5 ② 「綾野学区」って、どんな街なのかな？
- 6 参考データ(人口の増減比較、他)
- 8 ③ 「地域の課題」って、どんなことかな？
- 9 ④ 地域の「課題」って、どうやって解決していくのかな？
- 10 ⑤ 綾野学区って何？・・・「あやの豆知識」
- 11 ⑥-1 地域の課題を見つめてみる(その1)
- 12 ⑥-2 地域の課題を見つめてみる(その2)
- 13 検討委員会での具体的な意見の概要
- 18 参考資料(1) 綾野学区における「区・自治会」について(独自資料)
- 18 参考資料(2) 綾野小学校の「通学区域」について
- 19 参考資料(3) 水口町市街図(住居表示実施前)
- 20 参考資料(4) 綾野学区中心部の区・自治会の位置図(概略)
- 21 参考資料(5) 自治振興会によるまちづくりについて(甲賀市資料、部分)
- 22 参考資料(6) 地域別ランドデザインの推進方針について(甲賀市資料より、部分)
- 23 参考資料(7) 綾野学区における「まちづくり活動」の経緯
- 25 参考資料(8) 検討委員会開催状況
- 27 参考資料(9)-1 グループ討議による課題抽出関連図(グループ1)
- 28 参考資料(9)-2 グループ討議による課題抽出関連図(グループ2)
- 29 参考資料(9)-3 グループ討議による課題抽出関連図(グループ3)
- 30 参考資料(10) グループ討議による個々の具体的なプラン(ヒント、アイデア)
- 32 地域別ランドデザイン検討委員会(綾野地域)メンバー



～20年後の「AYANO」に向かって～

甲賀市地域別ランドデザイン綾野学区検討委員会からの「提案」です！

私たちが想像する「綾野の未来」は、

- 一人ひとり（＝それぞれの価値観）が織りなす、幸せな暮らし
- みんな（＝共通する価値観）が生み出す、住みよい地域が共存する社会です。

その「綾野の未来」を作り上げていく担い手は、

- 主役は、「わたし」（一人ひとり）です。
- 一人ひとりが手をつなぐ「みんな」です。
- 「現役世代」です。年齢には関係なく、やる気のある人、行動する人が「現役世代」です。私たちはいつまでも現役世代でいられます。

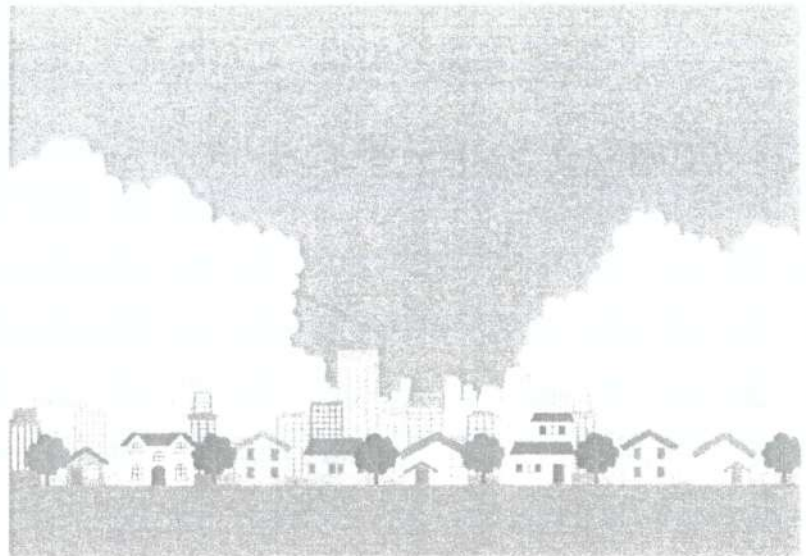
それを支えるしくみは、

- 仲間＝同じ思いや夢を描いて、それを「カタチ」にするために手をつなぐ。
- 変える・創ることにより、残す・守ることができる「本質」もあります。
- 自分で考えていい、自分が行動していい。そしてその結果を受け止めて次に進む。これが「自治」なのだと考えます。これは、私たちに与えられた「権利」です。



まず何をするの？

- 「私が」やってみたいこと、できること、やるべきことを見つけましょう。「こうなったらいいなあ」という小さな思いも、みんなで行動すれば・・・
(友だち、地域、そし



て行政や事業所も、みんな「仲間」にしてしまいましょう！)

- やりたいことが見つかったら、みんなにとって楽しいこと、楽しいやり方を考えます。「楽しい」は大きなエネルギーになります。
- まずは、そんな仲間を見つけ、わいわいおしゃべりしながら、つながりましょう。

その次には？具体的には？

- そこから先の具体的な動きは、ここでお示しするよりも、地域のみなさんの「わたしが」から始まるものだと考えています。
- もっともっと若い世代、あるいはいろんな世代の「現役感」を持った「わたし」がこれから先の主人公です。
- 今までになかった、あるいは今まで知られていなかった「新しいつながり」が、綾野の未来を作り上げていってくれと、信じています。



検討委員会では、こんな意見交換をしてきました。

① 「地域別グランドデザイン」って何かな？



pixta.jp - 82907988

- 市が示している「グランドデザイン」の定義はこれです。
 - 地域ごとの課題の解決に向けた**方向性**を示すもの。
 - 地域と行政が協働して作り上げていく**関係性**を示すもの。
 - その方向性や関係性を具体的に表す計画や段取りなどをまとめたもの。
 - ハードやソフトの施策、展望年度などを示したもの。
- 地域別グランドデザイン「綾野学区版」とはどんなものですか？
 - 未来につながる設計図を、他人（例えば検討委員会など）が作ったものをただ実行するだけ、というのは意味のないことだと考えました。
 - 地域の未来をデザインし実行するのは、その時代の「若者」（＝現役）あってほしいのです。
 - 20年後の地域の未来図は、私たちだけの想像に頼って描いてしまうのではなく、しっかりと次の世代に託すということを宣言することなのだと思います。
 - そのために、まずはこの綾野学区の「現役パワー」を、広げ、強めていくこと、この第一段階に集中して取り組んでいければと思います。
 - 今回のこのグランドデザインが、そんな「宣言書」になれば嬉しいことです。



pixta.jp - 79404063

② 「綾野学区」って、どんな街なのかな？



- 甲賀市全体の現状は、この通りです。
 - ・ 人口は減少傾向で、合併時には約9万5千人だったのが、今では約6千人減って、約8万9千人になっています。
 - ・ 特に山間部（土山、甲賀、信楽の各地域）で、減少率が高くなっています。
 - ・ 甲南、水口の各地域では、微増、横ばい状態です。
 - ・ 世帯数は、合併時約3万世帯 → 今は約3万8千世帯
- 綾野学区の現状は、この通りです。
 - ・ 人口は、7,279人
 - ・ 世帯数は、3,642世帯
 - ・ 綾野小学校の児童数は、自全体で減少が続く中で、大きく減少はしていません。
 - ・ 高齢化率は、甲賀市全体と比べると、低いです。
 - ・ 官公庁（市、県、国などの施設）や、スーパー、病院、学校、コンビニなども近くにたくさんあって、その意味では「暮らしやすい地域」であるとも言えます。



参考データ

人口の増減比較

(単位：人、%)

	H16.10月末	R5.3月末	増減数	増減率
水口町	39,389	41,218	1,829	4.6%
土山町	9,315	6,926	▲ 2,389	▲ 25.6%
甲賀町	11,877	9,408	▲ 2,469	▲ 20.8%
甲南町	20,563	20,801	238	1.2%
信楽町	14,147	10,512	▲ 3,635	▲ 25.7%
市全体	95,291	88,865	▲ 6,426	▲ 6.7%
綾野	6,529	7,279	750	11.5%

市全体で人口は減少していますが、綾野では増加しています！

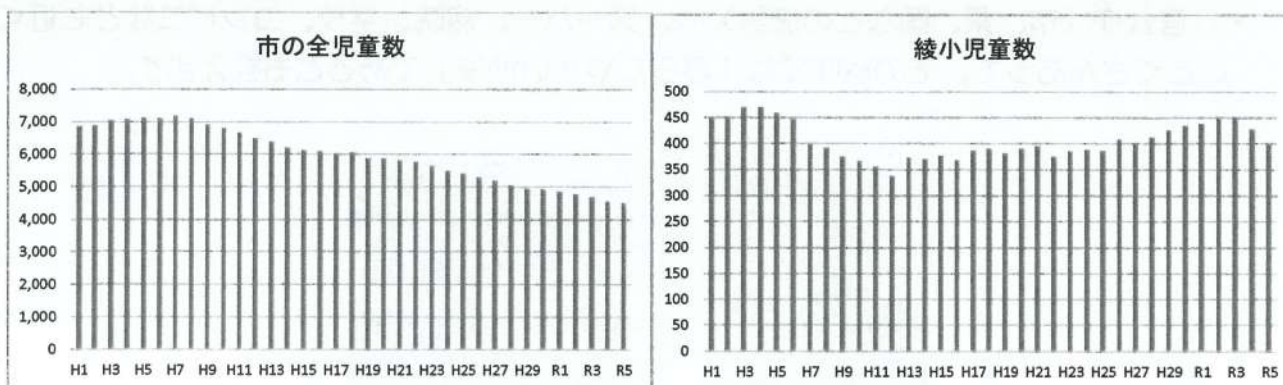
世帯数の増減比較

(単位：世帯、%)

	H16.10月末	R5.3月末	増減数	増減率
水口町	13,297	17,702	4,405	33.1%
土山町	2,701	2,923	222	8.2%
甲賀町	3,238	3,637	399	12.3%
甲南町	6,264	8,408	2,144	34.2%
信楽町	4,654	4,845	191	4.1%
市全体	30,154	37,515	7,361	24.4%
綾野	2,657	3,642	985	37.1%

核家族化は市全体に見られ、綾野は特に進んでいます。

綾野小学校児童数推移



★甲賀市全体では平成7年をピークに児童数の減少が続いていますが、綾野小学校では年によって増減はあるものの明らかな減少とはなっていません。

少子化の時代でも 綾野小学校はずっと賑やかです！

綾野地域の高齢化率

(単位：人、%)

平成28年	14歳以下	15～64歳	65歳以上	合計	高齢化率
綾野	1,045	4,305	1,476	6,826	21.6%
甲賀市全域	12,504	55,903	23,541	91,948	25.6%

令和5年	14歳以下	15～64歳	65歳以上	合計	高齢化率
綾野	999	4,693	1,587	7,279	21.8%
甲賀市全域	10,881	52,329	25,655	88,865	28.9%

★甲賀市の高齢化率は平成28年と比べ3.3ポイント増の28.9%

★これに対し綾野では0.2ポイント増に留まっています。

市全体では約3割の高齢化率も 綾野では約2割に踏みとどまっています！

市内および綾野地域の空き家の状況

町別	空き家数		増減数
	平成28年	令和5年	
甲賀市	1,366	1,605	239
綾野	163	100	▲ 63

※甲賀市住宅建築課調べ

★市全体では7年間で239軒の増加ですが、綾野では63軒減っています。

市全体では空き家が増えていますが、綾野では減っています！

このように、市の全域で人口減少や少子高齢化が進むなか、綾野は人口は増え、子どもの数もそんなに減らず、若い世代も市内では多い地域です。つまり、

(その他)

綾野は市内でも元気で飛躍の可能性を備えた地域だと思いませんか？

※ 外国人人口(合併時との比較)

市全体 2,468→4,279人で+1,811人、73.4%増

綾野 580→723人で +153人、26.8%増

※ 綾野学区とそれ以外が混じっている地域(新住居表示による統計のため)の扱いについて

- ・ 住基システムに学区コードがあり、これで分類している。
- ・ ただし、現行のシステムになった平成28年までしか遡れず、合併当時の綾野に係る数値は按分で算出している。

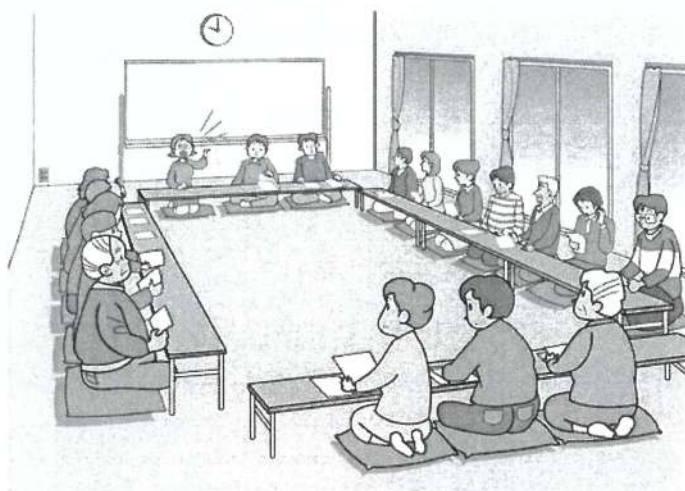
③ 「地域の課題」って、どんなことかな？



- 平和な「まち」なのか、それでも課題や悩みはあるのか・・・
 - ・ 人によって感じ方は違うと思いますし、また、いろいろな悩みや幸せを同時に抱えているのかもしれませんが、世界の中の、戦争や飢饉で苦しんでいる地域から見れば、なんとも平和な暮らしに見えるのかもしれませんがね。
 - ・ それでも、個人や家族や、地域や職場や、いろいろな場面で、「問題」や「課題」に囲まれ、それに立ち向かって解決したり、放置したり、時には逃げたりしているのも現実かもしれません。

- そんな課題や悩みに対しては・・・
 - ・ 少しでも幸せな暮らし（人生）を手に入れよう、また、家族や子どもやかわいい孫たちに、少しでも住みよい社会を残してやりたいと願う気持ち。
 - ・ もしかしたら、そんなみんなの思い（願い）が、共通した「価値観」なのかもしれませんし、またそうであってほしいと願うものです。
 - ・ 個人のステージでは、例えば体を鍛えたり、勉強したり、小説を読んだり、美味しいものを食べたり、友達を作ったり。家族というステージでは、家を修繕したり、車を買って替えたり、生命保険に入ったり、家族旅行をしたり。
 - ・ でも、もう少し広い「地域社会」に関わる課題（問題）については、どう対応していったらいいのでしょうか。

④ 地域の「課題」って、どうやって解決していくのかな？



- 地域の課題に対する、「今までの」対応の仕方は・・・
 - ・ 区長（自治会長）さんや町代さんをお願いする。
 - ・ 地元の市（町）議会議員さんをお願いする。
 - ・ 区（自治会）を通じて、市（町）への要望書をお願いする。
 - ・ 交通や防犯関係であれば、直接警察署（駐在さん）をお願いする。
 - ・ 学校（PTA）、区（自治会）などの作業（動員要請されたもの）に参加する。
 - ・ など、何かの「体制」に頼る手法が一般的であったのではないかな？
 - ・ 将来に向かっての課題などについては、なかなか手段はなかったのかも・・・

- これからもそれで対応（解決）していけるのかな？
 - ・ 今、甲賀市の財政、人材、機動力などでは、地域の課題に、目の前の問題に、なかなかすばやく解決できない、というのが現状です。
 - ・ なんとか、将来展望に基づく方向性や、優先順位、対応手段の多様な選択肢などを見極め、効果的な対応が必要となってきています。
 - ・ それには、行政だけでなく、地域も、市民も、頭と体を動かさなければなりません。

- これは、市が「白旗」をあげて降参したということなのかな？
 - ・ そのようにマイナスに解釈するのではなく、「地域と一体となって、協働して課題を解決するという新しい手法にチャレンジする」と前向きに考えていきたいと思います。
 - ・ その意義を理解し、効果を期待し、市民同士が手をつなぎ、また行政とも手をつないでいくという姿勢を確認すること、それが「地域別グランドデザインとは何か」の答えの一つとしたいと思います。

⑤ 綾野学区って何？…「あやの豆知識」

※ この内容については、市の公式見解ではなく、綾野地域の現実的な状況を、わかりやすく説明したものです。



● 綾野学区って？

おおむね、甲賀市立綾野小学校の通学区域(校区)を「綾野小学校区」、または「綾野学区」と呼んでいます。ただ、通学区域は地図上で厳密に線引きされているものではなく、区や自治会単位で分けられていることが一般的ですので、その境界はなかなかはっきりしません。

● 区、自治会って？

区や自治会を行政側からとらえると、「行政区」という位置付けで、市役所と地域を結ぶ基本的な単位組織となっています。

しかしながら、その発生・発展の歴史から考えると、いわゆる「番号区」、すなわち、「水口第14区」から「水口第22区」までの行政区などは、「いくつかの近隣町内が連合しているもの」というイメージになります。この場合、基本の組織は「町(町内)」です。

● 加入率、組織率って？

その地域に住んでいながら、区・自治会やその町内に参加しておられない住民の割合は、年々増加傾向にあると思われます(加入率の低下)。

また、宅地開発が行われたり、集合住宅が建ったりしても、そこに自治会が組織されないというケースも多くなっています(組織率の低下)。

● 区・自治会への加入促進について

かつては、転入された方に対して、区・自治会への加入を推奨されていた時期もありましたが、現在では、もともと加入されている住民の方の「脱会傾向」が課題となっているようです。

高齢化に伴い、組織の役務(区長さん、町代さんなど)を受けられる方が見つからなくなったり、若い人たちの理解が得られなかったりということが、どこの地域でも悩みとなっているようです。

● 住居表示による「町名」って？

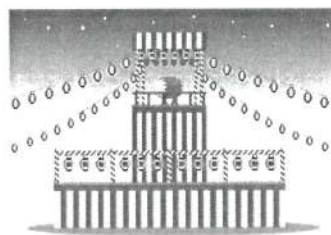
水口町の中心部の住所については、昭和41年に「住居表示」が実施され、いわゆる「旧町名」の上に、全く別の「住居表示(本丸1番20号など)」が被せられました。基本的には道路や河川などを境に線引きされていて、ほぼ全域で区や町内のエリアとはズレている状態です。

しかしながら、地域の区や町内のエリアは決して「旧」になったわけではなく、そのまま生き続けていますので、地域の結びつきや範囲については、住居表示では説明できないのです。

⑥-1 地域の課題を見つめてみる(その1)



- 「旧来のしきたりや枠組み」に縛られている?・・・
 - ・ お寺、お宮さん、山の神、昔からの行事や風習が引き継がれている。
 - ・ 掃除や各種当番がいろいろと回ってくる。事情があっても抜けられない。
 - ・ いろいろな役員があり、それを受けられる人材がもういない。
- このような状況で、私も、他の人も、いろいろな思いを抱いている。
 - ・ 仕事や家庭の事情、高齢化などで、もう付き合っていけない。
 - ・ 引き継いでいかなければ、とは思うが、具体的なやり方に不満がある。
 - ・ もっと簡略化、簡素化できないのか。
 - ・ 子どもたちも地元へは戻ってこない。もう私たちの世代でおしまいだ。
 - ・ 若い世代が無理解、無関心、非協力的だと感じる。



- なんとか改善していくヒントは?
 - ・ 単に、「やめる!」:「やめたらあかん」の議論だけでは解決しないかも。
 - ・ しきたりや枠組みなどの基礎にある、「本当に残したいもの」って何かな?
 - ・ それを守るためには、「変える」って手法もあるかもしれない
 - ・ せっかくなら、「楽しく」続けていきたいね。

⑥-2 地域の課題を見つめてみる(その2)



- 地域みんなが「つながり」、「協働」するにはどうしたらいいのかな？・・・
 - ・ 反対する人、無関心な人、いろんな人がいて・・・。
 - ・ 仕事やライフスタイルも様々で、時間や気持ちもなかなか揃わない。
 - ・ いろんな価値観があって、手をつなぐのが難しい。
- まず、「みんなそれぞれに違う」ってことを受け入れることから始めてみては？
 - ・ むりやり表面を取り繕って握手しても、なかなか続かない。
 - ・ 同じなのか、違うのか、そもそもお互いに何にもわかりあっていないのでは？
 - ・ もうちょっとだけでも、相手の（みんなの）ことを知れば、なにか進むかも。
- どうすれば相手(みんな)のことを分かっているのかな？
 - ・ 食べるもよし、飲むもよし、とにかく話そう。
 - ・ 楽しいことを一緒にすれば、違いも含めて分かり合えるかも。
 - ・ 思いの「同じ・違い」をわかり、それを尊重するのが「共存」かも。
 - ・ まずは、「全体的な協働」よりも、「みんなと共存、仲間と協働」

「適度な距離感」を見つけ、保っていくのも、大事なポイントかもしれませんね・・・。



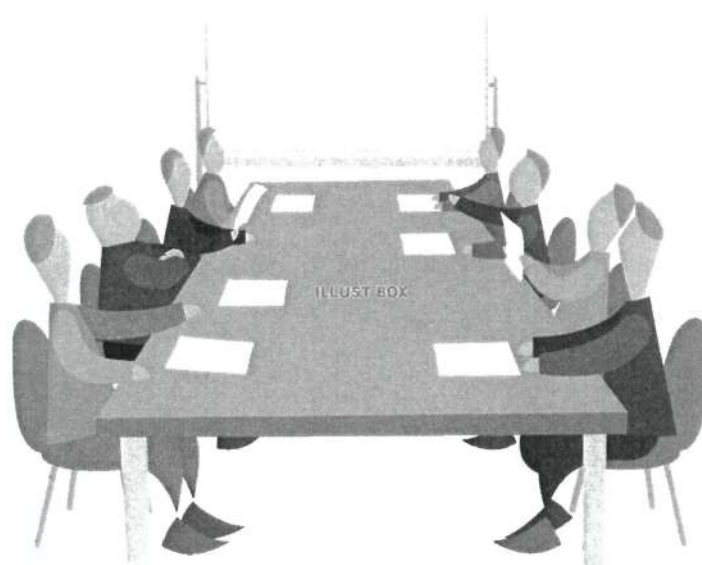
pixta.jp - 20841047

検討委員会での具体的な意見の概要

※ これは、ランドデザインとしての「決定事項」ではありませんし、まちづくりの「正解」でもありません。検討委員会のメンバーが、「私は」を主語として、自分がアクションできるイメージを語り合ったものです。

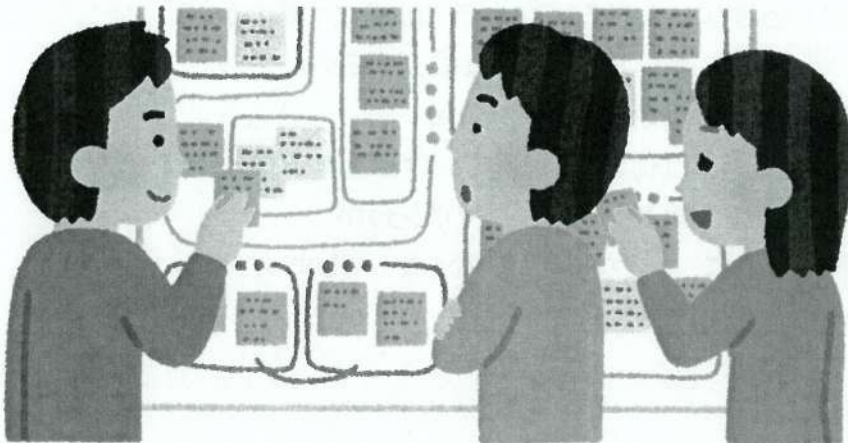
● 私たち(ランドデザイン検討委員会)が感じた、地域にとっての課題や問題点

- 学校をコミュニティとして認め、活用することはできないだろうか
- 私たち自身が、地域の良さをわかっているのだろうか
- 既存のコミュニティ(区など)のメンバー自身が息苦しさを感じているのではないか
- しきたりを残すということの無意味さを、みんなが感じているのではないか
- 地域で、壮年(高齢者)と、次の若い年代とが、きちんと共存、交流できているのか
- 区や自治会の「しぼり」のない地域として、転入者に歓迎されている現実がある
- 高齢化や空き家が増加している地域におけるコミュニティは成立するのか
- アパートや店舗などが多い地域におけるコミュニティは成立するのか
- 子ども同士のコミュニティは、地域的に成立しているのか
- 地域(区など)に入らなくても、実際には何とか暮らしていける現実がある
- 住民と、お寺や神社との関わりが、今後どうなっていくのだろうか
- 役員が嫌なのは昔も今も同じなのに、なぜなり手がいなくなってしまったのか



私たち(ランドデザイン検討委員会)が感じた、地域にとって大事なもの(価値観)

- 地域とは何か。コミュニティとは何か。コミュニティとは「力」である。住む人を惹きつける力、課題に向かう力、仲間を集め行動する力、結果に責任を持つ力、人任せにしない力、である。
- コミュニティとは、他から押し付けられるものではなく、自分たちでまとめ、作り上げていくものである。
- そこには義務や責任も存在するが、何よりも必要なのは「楽しさ」である。楽しさがみんなを引き寄せ、結び付ける。
- 今できること、今やらなければならないことを、考え、行動すること。
- 「残す、守る」だけではなく、「変える、創る」ことも必要。それが、本当に守るべきものを守ることにつながる。
- 今の私たちが「もうええやん！」と思っている、地域の「やっかいごと」を、そのまま将来の住民(我々の子どもたち)に残してしまてはいけない。
- 絵に描いた餅ではなく、小さくても、「やれること」、「具体的なこと」に「手をつけていく」ことが大事。うまくいかなければ、やり直せばいい。



● 私たち(現時点での地域の現役世代)がやれること、やらなければならないこと(ミッション)

- 区取説(トリセツ=取り扱い説明書)づくり
区や自治会などのいわゆる「地域コミュニティ」には、古くからの規約があったり、また成文化はされておらず、申し合わせや慣例であったりするかもしれません。今一度、それらを見直し、地域やそこに住む住民にとって本当に必要なルール(仕組み)を考えてみませんか。建前の、形だけの決まり事ではなく、まちづくりを進めていくのに便利な仕組みを、みんなで発見してみませんか？
- 綾野自治振興会の、地域に対する支援スタンスの確立
自治というのは、自分たちで考え、自分たちで決め、自分たちで行動し、自分たちでその結果を受け入れることです。これは、地域(区なども含む)の義務であり、また特権でもあります。自治振興会は、その特権を奪うことがあったり、あるいはそのつもりはなくても、結果的にそれを阻害することがないように、十分に配慮しなければなりません。自治振興会も自治権

を持つ組織の一つではありますが、本来の目的は「地域の他の自治を育て、支援すること」なのです。

○ コミュニケーションを目的としたイベント

自治の力を備えたコミュニティづくりには、住民同士のコミュニケーションが欠かせません。特に綾野学区においては、その地域特性から、大字地域に見られるような、地域内のコミュニケーションが十分に取れていないエリアが多く存在しているものと感じられます。

○ ミニコミ紙

世の中、デジタル社会だとはいうものの、まだまだ紙ベースの情報に安心感を持たれている方々も多いと感じます。いくつかのコミュニケーションの手段の一つとしても、また地域の情報発信の手法としても、考えてみたいと思います。

○ あやの社中

上記のような「やれること」、「やらなければならないこと」をどこが、誰が引き受けるのかという課題ですが、まず頭に浮かぶのは、やはり「綾野自治振興会」だとは思いますが、しかし、支援スタンスの項目でも述べましたように、「地域発」も大切にしたいところです。

社中というのは、幕末の時代に坂本龍馬が立ち上げた組織で、日本で最初の「カンパニー＝会社」であるとも言われています。まちづくり株式会社というイメージは全国各地で取り入れられているアイデアであり、これに倣って思いついたものです。思いを持った仲間が集まり、自由に発想し、行動できればと思います。



pixta.jp - 72121624

参考資料(1)

綾野学区における「区・自治会」について(独自資料)

番号	名称	町内 (いわゆる「旧町」)	備考
1	水口第14区	天王町、栄町、河内町、北町	
2	水口第15区	天神町、心光寺門前町、西郷山町	
3	水口第16区	郷山町、綾野町	
4	水口第17区	美濃部町、田中町、八幡町	
5	城南区		
6	水口第18区	東邸町、御本丸町	
7	水口第19区	天王口町、南小路町、丸の内町	
8	水口第20区	北邸町、東小坂町、小坂町	
9	水口第21区	金刀比羅町、広小路町	
10	水口第22区	内殿町、西小路町	
11	林口区	東林口、西林口、西邸北、西邸南	
12	名坂区		
13	東名坂区		
14	名坂堂山区		
15	城内自治会		
16	本丸自治会		
17	梅の木自治会		
18	あやの中央自治会		

- 「町内」のある区長の選出については、区全体の選挙によらず、持ち回りで町内から選出するところが多い。
- 町内の代表者を「町代」という。
- 区への加入(いわゆる「区入り」)は、実際には「町内」が決定しているところが多い。
- 天王町(14区)、河内町(14区)、天神町(15区)が、水口祭の曳山を所有している。

参考資料(2)

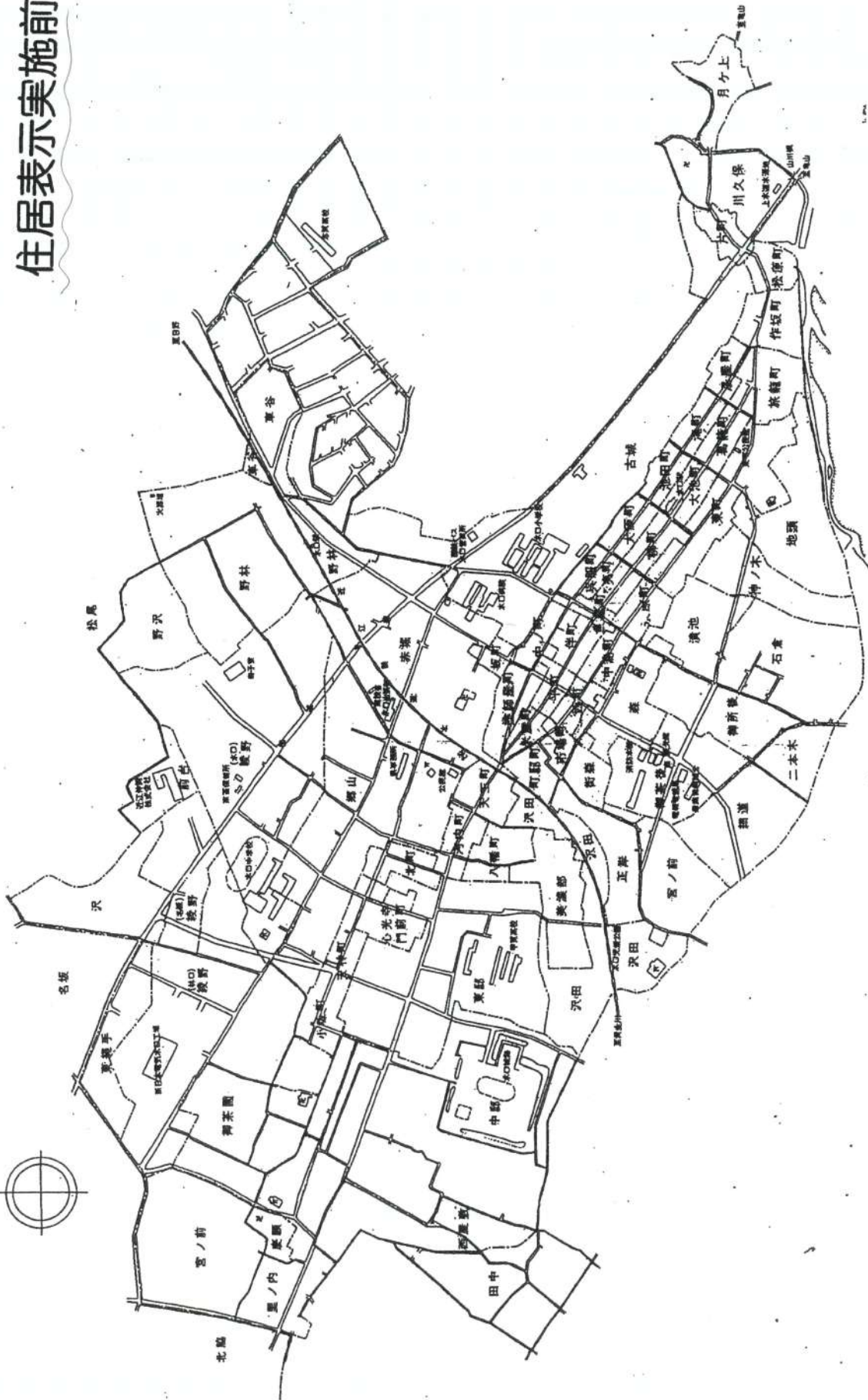
綾野小学校の「通学区域」について

(甲賀市学校通学区域規則より)

「水口町名坂(以下、「水口町」を省略)、東名坂、本綾野、八光、梅が丘、城東、綾野、日電、城内、本丸、中邸、南林口、的場、東林口、西林口の一部、宮の前の一部、鹿深の一部、本町3丁目の一部、新町2丁目の一部、八坂の一部、水口の一部、笹が丘の一部」

水口町市街図

住居表示実施前



「綾野学区中心部の区・自治会の位置図」(概略)



参考資料(5)

「自治振興会によるまちづくり」について(甲賀市資料、部分)

1 自治振興会について

(1) 自治振興会のあり方

□ (仮称)まちづくり協議会への名称変更

- 自治振興会を区・自治会が中心となった協議体として位置付けることから、まちづくり基本条例を改正し、自治振興会の名称変更手続きを進める。
 - ・「自治振興会」→「(仮称)まちづくり協議会(以下、(仮称(は省略))」に変更
- まちづくり協議会の役員は、区・自治会の区長及び推薦等された者が担う。
- まちづくり協議会は、市等との協働により地域の課題の解決に向けた事業に取り組む。
- 市は、まちづくり協議会の役員等を対象に協議体の説明を行い、浸透を図る。

(2) まちづくり協議会への支援

- 事務局強化の支援により、まちづくり協議会および区・自治会の負担軽減を図る。
- 事務局強化の支援として、地域マネージャーの地域雇用、中核地域市民センターへの支援職員の配置、自治振興交付金の見直しを図る。

(3) 地域マネージャーの地域雇用

- 令和6年度から地域による雇用を始める。
- 地域雇用するまちづくり協議会には「(仮称)地域マネージャー交付金」を交付する。

2 住民自治組織について

□ 住民自治組織の定義

- まちづくり基本条例(以下「条例」という)第18条に定める「まちづくり協議会」と条例第19条に定める「区・自治会」を住民自治組織とする。※詳細は規則に明記する。
- 「区・自治会」は、地域のつながりのために設立された基礎的な自治組織とし、「まちづくり協議会」の運営や活動の中心的な役割を担う。

□ 区・自治会とまちづくり協議会の関係

- 地域内のすべての「区・自治会」は、「まちづくり協議会」の意思決定、運営に関わる。
- 「区・自治会」は、区域住民の意見等を「まちづくり協議会」の事業等に反映させる。

□ 市と住民自治組織(区・自治会及びまちづくり協議会)の関係

- 市と住民自治組織は、対等な立場としてまちづくりに関わる役割を分担し、相互協力しながらその役割を果たす。
- 市は住民自治組織の活動のために、自治振興交付金の交付、まちづくり協議会の拠点施設の整備、中間支援等を行う。

参考資料(6)

地域別グランドデザインの推進方針について(甲賀市資料より、部分)

1 目的

- 公共施設の老朽化や社会保障費の急増など、団体自治としての公共的な課題も避けては通れない状況になっています。
- 「地域でなければ解決できないこと」「行政だからこそすべきこと」「地域と行政がともに解決すべきこと」をそれぞれの地域ごとに考え、地域ごとに最も適した答えを導き出す必要があります。
- 住み慣れた地域で「いつもの暮らし」を守り続けるため、市全域一律一辺倒の公平性に捉われることなく、地域課題を地域ならではの施策で解決することが必要です。
- 市民、区・自治会、自治振興会、市民活動団体、民間事業者等、議会及び行政が、対等な立場で対話による合意形成を図り、地域別グランドデザイン(地域の将来展望)を策定、共有しようとするものです。

2 基本的な考え方

- グランドデザインとは、概ね小学校区単位(自治振興会ごと)における地域課題と行政課題を示すとともに、その解決に向けた方向性について、対話による合意形成が図られたものです。
- グランドデザイン策定が目的ではなく、検討プロセスを通じ地域住民と行政が信頼関係を築き策定した後もデザインの更新と合わせ関係性を継続していくことを目指すものです。
- 既存の「地域づくり計画」「地域カルテ」をベースとし、市民(地域)、行政、双方の年度ごとの具体的な行動や段取りをまとめます。
- ハード施策(公共施設の集約、複合、転用、廃止)とそれらを補完するソフト施策(交通、福祉、移住、空き家、人材育成等)を具体的に示します。
- 展望すべき年度は、現役世代が責任を持てる未来であり、高齢化のピークとされている概ね20年後(2040年)とします。



参考資料(7)

綾野学区における「まちづくり活動」の経緯

平成16年(2004年)10月1日に、甲賀郡内の7町の内、水口町、土山町、甲賀町、甲南町、そして信楽町の5町が合併し、甲賀市が誕生しました。

平成23年(2011年)4月23日に、綾野学区において、綾野自治振興会「綾野学区まちづくり協議会」が発足しました。

平成26年(2014年)4月1日に、綾野自治振興会によって「綾野学区まちづくり計画」が策定されました。

令和2年(2020年)3月に、綾野自治振興会によって「綾野学区まちづくり計画」(改定案)が策定されました。(※案の段階から進んでいません)

令和4年(2022年)3月31日に、綾野地域市民センターにより、「綾野学区地域カルテ」(改定版)が作成されました。

令和4年(2022年)10月19日に、第1回地域別グランドデザイン検討委員会が開催されました。

令和5年(2023年)8月28日に、新年度のメンバーに入れ替わり、第5回地域別グランドデザイン検討委員会が開催されました。

令和6年(2024年)2月28日に、最後の第12回地域別グランドデザイン検討委員会が開催され、「綾野学区地域別グランドデザイン～20年後のあやのに向かって～」が、成果物としてまとめ上げられました。

アドバイザーの委嘱

- 成安造形大学未来社会デザイン共創機構研究員 田口真太郎 氏

過去のアンケート等

- 綾野自治振興会アンケート(令和3年度)結果
- 綾野学区まちづくり計画書(案・令和2年度)
- 綾野学区まちづくり計画(平成26年度)
- 綾野学区地域カルテ(令和3年度改訂版)

綾野学区のグランドデザインとして、今回は「取り扱わない課題」

- × 市役所などの官公庁施設(地域市民センターを除く)
- × 医療・保健・福祉機関、施設
- × 教育機関施設(小、中、高)
- × 買い物、金融、アミューズメント等の施設
- × その他、十分な密度で地域内または近隣に存在し、「ない」ことについての不便さを感じていないもの

コメント

綾野学区は甲賀市の中心部であり、公共施設、商業施設、教育施設、アミューズメント施設など、甲賀市全体、あるいは甲賀市外の周辺地域をもカバーする施設や機能を抱えている地域である。これらのものは、綾野地域の住民生活をも同時に支えており、多機能で重層的な機能を持つことから、今回、学区としての取り扱いからは外すこととした。

参考資料(8)

検討委員会開催状況

- 綾野学区 第1回地域別グランドデザイン検討委員会
令和4年10月19日(水) 19:30～21:00 市役所別館 101会議室
概要:地域別グランドデザインについて、意見交換
- 綾野学区 第2回地域別グランドデザイン検討委員会
令和4年12月21日(水) 19:00～20:30 水口中央公民館 講義室
概要:他地区の状況、進め方の案提示、意見交換
- 綾野学区 第3回地域別グランドデザイン検討委員会
令和5年2月22日(水) 19:00～21:00 水口中央公民館 講義室
概要:検討の進め方について、外部アドバイザーの招聘について
- 綾野学区 第4回地域別グランドデザイン検討委員会
令和5年3月29日(水) 19:00～21:00 水口中央公民館 講義室
概要:地域資源を活かしたまちづくりの事例(講話)、意見交換
- 綾野学区 第5回地域別グランドデザイン検討委員会
令和5年8月28日(月) 19:00～21:00 水口中央公民館 講義室
概要:今年度の目標とスケジュール、地域の課題抽出(グループ)、意見交換
- 綾野学区 第6回地域別グランドデザイン検討委員会
令和5年9月27日(水) 19:00～21:00 水口中央公民館 視聴覚室
概要:地域の課題抽出(グループ)、意見交換
- 綾野学区 第7回地域別グランドデザイン検討委員会
令和5年10月25日(水) 19:00～21:00 水口中央公民館 視聴覚室
概要:地域の課題の優先順位、テーマ選定、課題の詳細分析
- 綾野学区 第8回地域別グランドデザイン検討委員会
令和5年11月20日(月) 19:00～21:00 水口中央公民館 視聴覚室
概要:課題解決へ向けての方向性、成果物のまとめ方について
- 綾野学区 第9回地域別グランドデザイン検討委員会
令和5年12月20日(水) 19:00～21:00 水口中央公民館 視聴覚室
概要:内容と成果物のまとめ方について

- 綾野学区 第10回地域別ランドデザイン検討委員会
令和6年1月24日(水) 19:00～21:00 水口中央公民館 視聴覚室
概要:内容と成果物のまとめ方について ※ 積雪の恐れがあるため、開催中止
- 綾野学区 第11回地域別ランドデザイン検討委員会
令和6年2月28日(水) 19:00～21:00 水口中央公民館 視聴覚室
概要:成果物と、その活用法について

その他の会議、ミーティング等

- ◇ 検討委員会職員チーム打ち合わせ
令和5年2月2日(木) 14:00～16:00
- ◇ 田口先生と打ち合わせ
令和5年3月16日(木) 15:00～16:00 成安造形大学
- ◇ 田口先生と打ち合わせ
令和5年7月19日(水) 14:00～15:00 成安造形大学
- ◇ 検討委員会職員チーム打ち合わせ
令和5年8月23日(水) 13:00～15:00
- ◇ 検討委員会職員チーム打ち合わせ
令和5年9月13日(水) 14:00～17:00 綾野地域市民センター
- ◇ 検討委員会職員チーム打ち合わせ
令和5年11月14日(火) 13:30～15:00 綾野地域市民センター

検討委員会において、提案、合意、確認、決定された事項

- ・ 公募委員をメンバーに加える → 自治振興会で公募し、1名加入
- ・ テーマ別検討委員会の開催 → 実施せず
- ・ ランドデザインの成果物を最終決定するのは、綾野自治振興会理事会とする
- ・ 成安造形大学未来社会デザイン共創機構研究員の田口真太郎氏をアドバイザーとする
- ・ 自治振興会、区長会からの検討委員については、次年度は新役員に引き継ぐ

地域の緊急性高い

「グループA」討論による課題抽出関連図(グループ1)

①住居と空き家の問題
①住居と家族構造の移動・変化
アパートや集合住宅が増えた
一人暮らし
②空き家・空き地の課題と活用策
便利な地域だけ戸数は減少
空き家が増えた
空き家
畑が耕作されない
管理されていない土地・建物が増えてきた
空き土地の処理

②地域環境とインフラ
①地域環境の管理と維持
井天池は大丈夫か?
側溝の老朽化
側溝の衛生面
③獣害対策
サルが増えてきて危ない
ノラネコ

③高齢者と子どもたち
①高齢者のライフスタイルとサポート課題
かなりの高齢化
高齢化は止まらない
高齢者の独居世帯が増えた
徘徊する高齢者が増える
②子どもたちの環境・活動と高齢者との交流の充実
子どもの数が少ない
スポーツ少年団が減った
公園の遊具が壊れてきたなあ
今の子どもは視野をどう捉えているのか?
③子育てと親世代のサポートと課題解決
児童虐待の問題が身近にある
暇になっても遊んでいる子どもがいる
④子どもたちの活動機会とコミュニティとのつながり
昔より不登校が増えた(?)
不登校の多さ
子どもが外で遊ばない

④地域の人口・人口動態
①人口の流入出や増減が複雑な綾野学区の未来
綾野学区に画は疆くのか?
人口減に合ったまちづくりを
都会だけでなくこの地域でも担いがふえているのでは
工業団地を中心にきたまだった
良い方向に本当に向かうのか?
学区内でも状況が大きく違う
人口減に合ったまちづくり(令和の考え方)
学区内でも集落が大きく違う
綾野学区という単位は馴染むのか?
綾野は実は40年くらい地域!
②若者・働く世代の地域定着と機会創出
高校卒業して出て行き帰ってこない
土地を残していたのに子どもが出て行ってしまった

対応が複雑

⑤地域の文化・観光
②地域行事・イベントの再構築
地域を繋げるのが楽しい(リトリート・リゾ)
行事を続けるのが難しい(リトリート・リゾ)
アバター・コロナの転換が大事ですね
夏祭りの復活。区役員で運営
イベント敬老会(75歳~)の再開を待っている人たち
送迎の問題。高齢者の足の問題
敬老会は区行事で一番大変...
コロナの間さみしかった。イベントを楽しみにしている
市の補助も(敬老会)75歳以上が対象

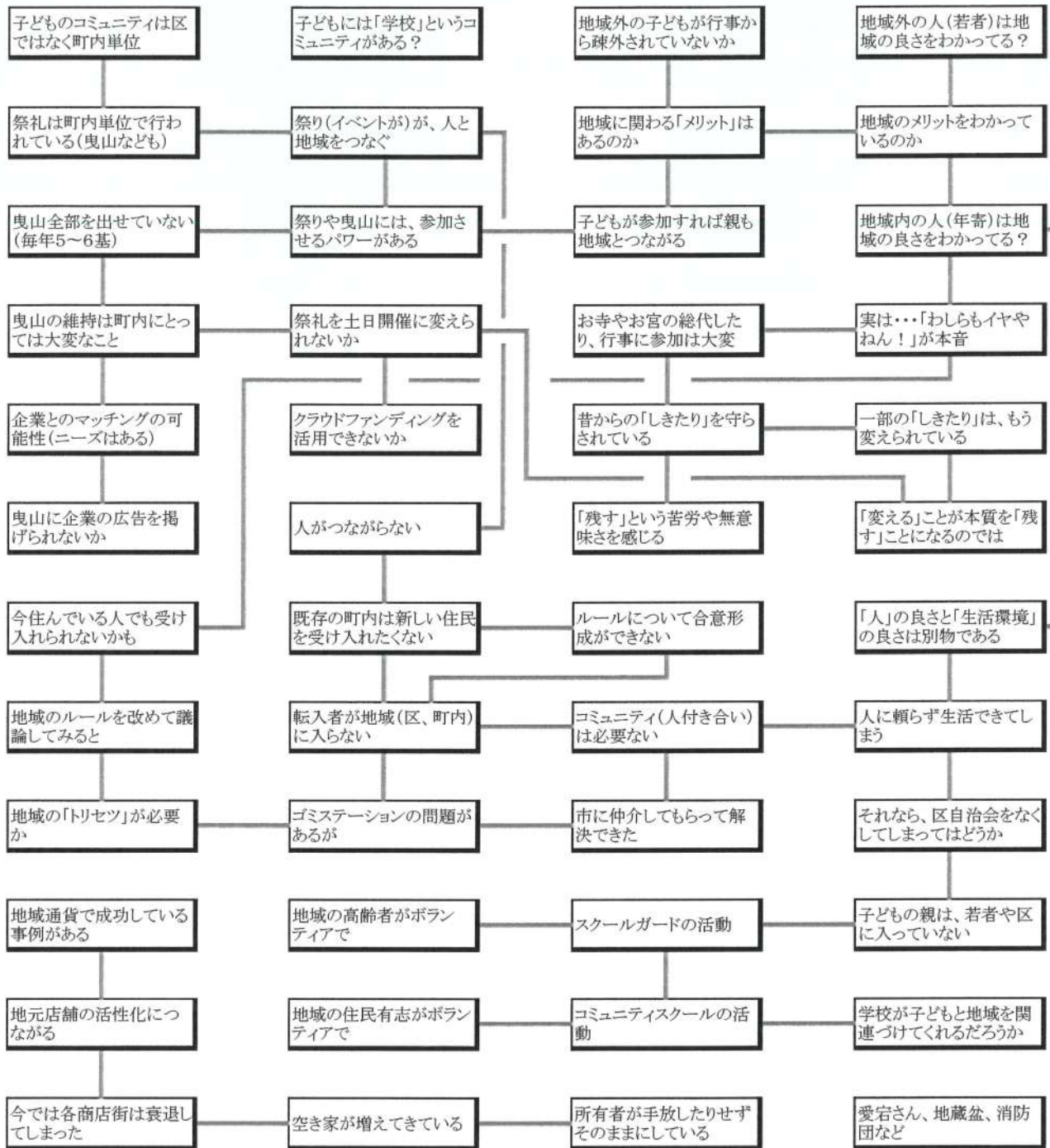
⑥コミュニティの強化
①地域コミュニティの強化とコミュニティの活性化
同年代の人と話す機会が少ない

⑩交通と移動性
①地域の交通と移動の利便性
コミュニティバスの運転手の技術低下
車に乗れなくなったらどうするのか?

⑦地域の経済・商業
①商業環境と地域の買い物利便性
近所の商店が減った
買い物の不便さ
開業医・買物に困らない地域
昔は買い物にきた繁華街

⑫多文化共生
①多文化共生と外国人の地域参画促進
外国の方との交流が少ない
人口は増え、外国人の受け入れも今後必要

⑨自治と地域組織
①自治会と葬儀会の地方自治の存続危機の問題
区入りの割合
町組織の存続
昔の行事が残っていると若い人は出ていく
②自治組織の変革と最適化
コロナは見過ごしのチャンス
区・自治会がない地域でも頼りつなかりはあるのでは?
区・自治会のない地域の方が人気がある
③役員・指導者の確保とモチベーション向上
転出せず区だけ抜ける
区長の引継ぎの文章が膨大!
ドミニカ型組織はやめないといけない!
自治会→旧町→市 上に上がりたくない
④自治組織の運営・役員任期の見直し
区・町内会の役員なり手不足
区・自治会に入らない特区



参考資料(9)-2

「グループ討議による課題抽出関連図」(グループ2)

【作成者(吉久)からのコメント】

- グループで話したことのニュアンスも振り返りながら、付箋の表現を変えたり、勝手に付箋を付け加えたりしています。
- グループでの話は、ある意味「取り留めもないもの」であり、必ずしも関連図と一致するものではありません。
- 付箋の表現や関連付けの線引き、あるいは省いてしまった意見や、「盛ってる」表現など、吉久の主観が入ってしまっています。

以上、エクセル上で関連図を作ろうとすると、どうしても「説明」が欲しくなってしまった結果です。お許しください。

①住居と空き家の問題
①住居と家族構造の移動・変化
②空き家・空き地の課題と活用策
人口は増加傾向だが空き家は増えている
空き家はこの地域こそ危険対策が急がれる
空地での農圃利用
フューチャーネット場所だけ提供する取組は出席者各自

②地域環境とインフラ
①地域環境の管理と維持
③被害対策

③高齢者と子どもたち
①高齢者のライフスタイルとサポート課題
困っていることをなくす
定年の延長の影響 60歳を超えても現役で地域のことにかかれたい
困っている人ひとひきこもり
②子どもたちの環境・活動と高齢者との交流の充実
同じ悩み 同じ趣味の仲間づくり(子育て世代 介護世代)
③子育てと親世代のサポートと課題解決
④子どもたちの活動機会とコミュニティとのつながり
草刈りをみんなで行うか金で解決するか

④地域の人口・人口動態
①人口の流入や増減が複雑な緑野学区の未来
人口が増えるかつながりがない
田舎から都市への流出はこれまでもこれからも
②若者・働く世代の地域定着と機会創出

⑤地域の文化・観光
②地域行事・イベントの再構築
寺や神社のことをやりたい人が移住してくる
国際交流協会との連携によりフワ開催
ジモティを使う人は外国人が若者
野菜や花を欲しい人は必要としている
時期で大変にとれるものを配りたいタケノコヨーイチビク

⑤コミュニティの強化
①地域コミュニティの強化とコミュニケーションの活性化
つながるイベントやイベント
コミュニティに参加するイベント
つながるのはイベントだけではない
地域のつながりより家族や個人の生活を楽しんでいる
つながりが壊れた人たちが集まるエリア
災害時に顔見える関係

⑦地域の経済・商業
①商業環境と地域の買物利便性

⑩多文化共生
①多文化共生と外国人の地域参画促進
多文化共生モデル地域
多文化共生センター活用
日常で外国人とつながることある?

⑨自治と地域組織
①自治会と振興会の地方自治の存続危機の問題
区加入率は低いという特性
②自治組織の変革と刷新化
地域行事に集まらなくても生活できる 負担金で対応
③役職・指導者の確保とモチベーション向上
参加しても区役員にならなくてもよい
自治会や区に入りたくない人が市内から緑野にきている
人材不足 団体の指導者はメンバーが同じ
自治会役員できないいや
④自治組織の運営・役員任期の見直し

対応が複雑

考資料(10)

「グループ討議による個々の具体的なプラン」(ヒント、アイデア)

(2グループ)

イベント

お花見会 盆踊り 運動会 ウォーキング 町中発見ツアー(ガイド付き)

お店、マーケット

軽トラ市 フリーマーケット 朝市 道の駅的な売り場スペース キッチンカー

既存の事業者(プロ) 健康数値測定会

たまり場、居場所

ジャズ喫茶 大人食堂 高齢者の技能の活用 包丁、研ぎます!

情報発信、共有

人材リスト(友だちリスト) FM 放送 手作り情報誌

まずやってみたい!

綾野版「はしご酒」

その他のコメント

フリマは定期的にやりたい ウォーキングは人気がある 健康数値測定は人気がある

フリマは幅広く人が集まる きっかけ、動き出しが大事 地域の集会所の活用

飲食は規制があり難しいかも 市民が「主役」になってほしい

高齢者も、若者も、女性も、外国人も なかなか情報に接する機会が少ない

既存のコミュニティでは対応できない 我々がしたくないことを、未来に押し付けない

(3グループ)

ターゲット

高齢者、若い世代、外国人

既存の団体、活動

ゆうゆうクラブ250人 散歩会 夢の学習 自治振興会女子部(お寺で教室)

スポーツ少年団 まるーむ(フェスティバル)

自治振興会+保育園(花いっぱい運動) 学校行事+訓練など ちびっこランド

活用できる場所

西保育園の跡地利用(フリマ、夜市) ブラジルフードショップ 駐車場の活用

具体的なアイデア

昔の遊びの伝承 パン ジャンクフード ブラジル料理 はしご酒 ランチ ママ友

その他のコメント

単身男性高齢者への声かけ 農業×福祉(フリースクール、家から出るきっかけ)

〇〇の会など定義付けはハードルが上がる

会議翌日(令和5年11月21日)のまとめ的 memo

- まずは、地域(綾野学区など)内で、いろいろな人たちのコミュニケーションや、情報の伝達、共有がもっと活発になる地域になってほしい。
- そこから、まちづくりの第一歩が踏み出せると思う。
- 既存の「おもしろくない」コミュニティでは、みんながなかなか交流できない。とにかく「楽しく」なれば、コミュニケーションは広がらない。
- そのためには、いわゆる「イベント」と呼ばれる既存の活動や、新しい取り組みも、その目的を見極め、みんなで共有すれば、コミュニケーション向上のツールとして有効に使えるのではないかな。
- イベントに参加したり、そのスタッフや主催者の一員となることによって、「他人→知り合い→友だち→有志」へと、みんなのつながりが広がってほしい。
- その「きっかけ作り」は、当面は自治振興会が担うべきなのかもしれない。しかし、振興会やそのスタッフが先走ってしまい、まちづくりの「おいしいところ」を住民から取り上げてしまわないように、十分留意しなければならない。
- 目的は、イベントの「形だけの成功」、「主催者やスタッフにとっての成功」ではなく、「住民の意識や行動の変化に寄与したかどうか」である。
- 自分たちが、仲間とともに、主体的に考え動くことが、実は「楽しいこと」であると感じてほしい。それが本当の「イベント」であり「お祭り」であると理解したい。
- まずは、綾野にある自分にとっての「推し」(友だち=人材、居場所、おいしいもの、楽しい遊びなど)を見つけること。
- まずは、考えてみよう。行動してみよう。

地域別ランドデザイン検討委員会（綾野地域）メンバー

地域委員	山田 克仁	(綾野学区区長会長、綾野自治振興会副会長)
同	伊澤 悟	(綾野自治振興会会長、綾野学区区長会副会長)
同	大賀 朗人	(綾野自治振興会会計)
同	小山 泉	(綾野自治振興会事務局長)
同	伊藤 直之	(綾野自治振興会理事、水口第15区区長)
同	中村 一弘	(綾野自治振興会理事、水口第21区区長)
同	池本 幸男	(名坂区在住、公募委員)
職員委員	山本 英司	(監査委員事務局事務局長)
同	松下 泰也	(教育委員会事務局次長)
同	緩利 圭代	(監査委員事務局課長)
同	伊藤 勲	(甲南公民館館長)
同	齋藤 美緒	(水口保健センター所長)
同	井口 英明	(マネジメント推進室係長)
同	吉久 義則	(綾野地域市民センター長)
同	井上 美雪	(綾野地域市民センター地域マネージャー)
アドバイザー	田口真太郎	(成安造形大学助教)

※ 令和6年3月時点でのメンバー、役職です。(敬称略)

